

環境情報学部 カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシー

<カリキュラム・ポリシー>

環境情報学部では、全学共通の教育課程に加えて、学部専門の教育課程を編成します。

1. 環境科学・情報技術・メディア表現の基礎を身につけるための学部基礎科目と専攻間共通科目を置き、講義・演習を行う。
2. 環境科学・情報技術・メディア表現の各領域の専門知識・技術を修得するとともに、社会で活躍・貢献できる力を身につけるために、環境科学専攻とメディア情報専攻の2専攻を置き、それぞれ下記の科目構成をとる。

2-1 <環境科学専攻>

地球規模と地域の環境問題を、科学的な手法で把握するために以下の科目群を設定する。

- 環境に関する基礎的な知識を修得する講義科目群
- 環境分析や測定、フィールドワークなどの実験・実習科目群
- 地域循環共生社会の実現に向けた具体的なターゲットを設定した演習科目群

2-2 <メディア情報専攻>

情報技術とメディア表現の根幹とその拡がりを、学術・実践の両面から修得するために以下の科目群を設定する。

- 情報処理・メディア表現に関する知識と技術を基礎から応用にわたって修得する講義科目群
- 情報処理・メディア表現の技術と技能を実践的に修得する実習科目群
- Society5.0の実現を視野に入れて具体的にターゲットを設定した演習科目群

3. 卒業論文または卒業作品、あるいは両方を制作する卒業研究を課す。

学生は1年次前期に2つの専攻に関する概論や導入的な科目を体験的に学修します。1年次後期からは各専攻に分かれて、専門的な学修を開始します。また1年次から並行して、専門的な学修の基盤となる全学共通科目を履修します。

<ディプロマ・ポリシー>

地球規模と地域の環境問題に加え、人口減少や少子高齢化の問題を抱える日本社会では、諸問題に立ち向かうための正しい科学的知識とともに、日々進化する情報技術や、人々に情報を効果的に伝えるメディア表現力を身につけた人物の育成が求められています。環境情報学部は、このような社会要請に応えるための教育を実践し、次の能力をそなえる人物に学士（環境情報）の学位を授与します。

1. 環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身につけている
2. 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる
3. 専門家に求められる倫理を身につけ、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる